

人命に影響を及ぼす保安重要部品を製造 難しい製品や技術に取組みスキルを磨く

樹脂精密成形と溶着をコア技術に持ち、自動車の燃料系精密部品とタンクアセンブリーを得意分野としている。創業当時から、高い精度と安全性が要求される保安重要部品を製造しており、売上の7割を占める。高い技術力・品質管理力で車の安全性、走行の快適性、さらには軽量化やリサイクル容易化で環境対応にも取り組んでいる。最近では、電気・水素自動車のエネルギー充填口部品を製造する等、自動車メーカーからの高い信頼を得ている。

●所在地	愛知県額田郡幸田町大字六栗字左右作2番地1
●電話／FAX	0564-64-1058／0564-64-1010
●URL	http://www.suzukikagaku.co.jp/
●代表者	代表取締役社長 小幡 和史

●設立	1960年
●資本金	3,500万円
●従業員数	184名



ITやロボットを積極的に導入し生産性や品質管理能力を向上

高齢化や人手不足を補うこと、また生産工程における単純作業での不良発生を抑える目的で、ヒューマノイドロボットを導入し、人が苦手とする繰返し作業はロボットが行い、ロボットが苦手とする精密作業は人が行う共同作業工程を確立している。他にもカメラを使用し製品の部品欠品を画像解析で判定するシステムも取入れている。また、同社は他社が敬遠する難度の高い製品を積極的に受注する方針であり、これを実現するため、3年連続して売上高の7%を超える設備投資を行い、生産性や品質の向上を図っている。



作業者とロボットの共同作業

自社開発のIoTシステムでデータを可視化し効率化

毎日の生産作業の前後に発生する段取作業の短縮を行い、生産作業の効率化をめざしている。このため、稼働率・生産数・サイクルといった組付けや加工のための設備の生産状況を可視化することによって、作業改善や生産性向上を目的としたIoTシステムの導入に取り組んでいる。このシステムを取入れることで設備の生産性を20%向上させることを目標に進めており、有効的に活用するためにシステム開発は自社独自で進め、IT人材の育成にも力を注いでいる。



IoTシステムでのデータ可視化

若手とベテラン社員の融合による部門活性化の推進

大卒新入社員は1年間の社内研修で全部門を経験後、希望を考慮したうえで決定することで配属のミスマッチを少なくしている。これにより過去10年間の入社後3年間在籍率は92%と高くなっている。配属後はベテラン社員とコンビを組み指導を受けながら仕事を進めることで、教える側も刺激を受け部門のマンネリ化、停滞化を防止している。この結果、役職者年齢は50代・40代・30代で33%ずつと均等であり部門の活性化が行われている。資格取得に対する支援も行い高度な技術を支える一助となっている。



大卒社員の社内研修の様子